

■編集 西区役所総務企画課広聴係  
〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1  
TEL 641-2400 内線224~226  
FAX 612-5264

○西区広報番組「西区情報プラザ」  
FMラジオ三角山放送局76.2MHz  
毎週月曜日午前11時~

○西区ホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/nishi/>



西町に住む佐々木啓子さんは、短歌集『乳房喪失』で知られる歌人・中城ふみ子を、十数年前から調べています。中城ふみ子は、昭和二十九年春、歌壇にすい星のように登場し、その夏、乳がんのため三十一歳の若さで亡くなりました。彼女の短くも鮮烈な生涯は、映画『乳房よ永遠なれ』や、渡辺淳一の小説『冬の火花』で描かれています。佐々木さんが中城ふみ子の歌集に初めて出会ったのは、ご自身が乳がんの手術を受けた十六年前。「彼女の歌に、



## まちの人

**中城ふみ子の生き方を  
多くの人に知ってもらいたい。**

病気と向き合う覚悟や意志の強さを感じ、衝撃を受けました」と当時を振り返ります。その後、ご主人の転勤でふみ子の出身地・帯広に移り、ふみ子の妹・野江敦子さんと知り合ったことをきっかけに、本格的に資料収集を始めます。十年かけて約二千点もの資料を調査し、一昨年『中城ふみ子資料目録』を出版しました。佐々木さんは「資料をまとめ上げるという大きな目的があったので、この作業にも病気に対しても頑張ることができました」と言います。

### 歌人中城ふみ子の資料をまとめ上げた

## 佐々木 啓子さん (63)

プロフィール：現在、中城ふみ子に関する活動のほか、北海道ユネスコ連絡協議会事務局で世界遺産の修復などにも尽力。乳がん患者のグループ「あけぼの会」の活動にも精力的に参加している。



◀ 中城ふみ子に関する学習サークル「亜麻の会」の会合は、毎月第1金曜日、北海道立文学館で開催されている

佐々木さんが講師を務めた西区民文学講座の受講者が「亜麻の会」を結成し、今年一周年を記念して会報誌『亜麻』を創刊しました。この会の会長も務める佐々木さん。活動の場も広がり、中城ふみ子に注がれる情熱は、今後ますます高まっていくことでしょう。